

平成30年度地域づくり活動記録（ボランティア活動支援事業事業）

● ボランティアクラブ オレンジリング（札幌市）

・事業の実施概要

月に1度の地域食堂のメニューはカレーとサラダです。マンネリにならぬよう工夫して作っております。300円ですが大盛りは400円で注文できます。他、コーヒー、お茶、水はセルフサービスです。

衛生面では、特に注意を払い、保健所での講習会を受け、ノロウィルス対策など、食中毒を起こさない為の勉強をしました。

スタッフの健康状態もしっかりチェックし、何らかの不調がある場合、申し出ることを原則としています。

・活動成果

寒いこの季節でも、毎回50～60席、満席になることもあります。衛生面では十分注意しており、勉強の成果もあり、問題の発生はありません。受付には季節にあった折り紙などを置き、会場には絵を飾ったり、花の季節には各テーブルに1輪の花びんを置き、明るい雰囲気の中で楽しんでいただく、その中でボランティアも楽しませていただいております。

● 一般財団法人 メンタルケア協会 北海道札幌事務所（札幌市）

事業の実施概要・活動成果

「生きる支援強化月間」心理職、精神対話士による「ほっと！相談」を実施しました。

1. 平成31年3月3日（日）10：00～17：00 札幌駅前通地下広場 憩いの空間

精神対話士10名→相談者29名

2. 平成31年3月5日（火）13：00～16：00 札幌市社会福祉総合センター
精神対話士5名→相談者0名

3. 平成31年3月6日（日）10：00～15：00 札幌市社会福祉総合センター
精神対話士3名→相談者29名

● ガールスカウト北海道連盟 札幌地区協議会（札幌市）

事業の実施概要・活動成果

毎年、札幌市内の少女が集い、世界の平和について考え、そのために自分たちに何ができるかを考える機会を持っています。

今年は、リーダーシップをテーマに国連持続可能な開発目標SDGsに取り組みました。6つのブースを設け、そのうちに①ブースを少女たちが担当し、どのようなことに気づきを持たせるのかについてという内容でよく考えられたものでした。



午前に行われたセレモニーは小学生を中心に進行を担当し、午後は中学生・高校生、成人がそれぞれブースを展開して、内容は貧困について、教育について、飢餓と飽食など、先進国に住む私たちと後進国との差を知り、普段の生活を見つめ直す良い機会とすることができました。

● 札幌くらぶ（札幌市）

事業の実施概要・活動成果

札幌くらぶは札幌交響楽団の演奏を楽しみ、その活動を支援するとともに会員相互の交流を図り、街の音楽芸術・文化の普及・発展・向上に寄与することを目的としています。

海外からの北海道大学等留学生にとって札幌の芸術・文化に触れることは重要で、当会は留学生が札幌演奏会を体験するボランティアを行っています。年間50名の正体を計画していますが、8月25日第611回札幌交響楽団定期演奏会に10名の招待、その後、東部震災等により事業ができなくなり、2月16日第616回札幌交響楽団定期演奏会に10名の招待ができました。札幌くらぶとして合計2回20名の招待が完了しました。

この事業によって留学生自身が得られる札幌交響楽団の音楽体験を報告し、より印象深くするとともに、札幌在住機関の豊かな生活に応援できたと思います。

この事業を通じて、札幌を街の誇りとして世界に紹介できたと思います。

参加者の声として、クラシックコンサートはインターネットで聴いたあるだけとても感激との声もありました。

・加留学生

中国、韓国、ドイツ、フィンランド、フィリピン、フランス、インドネシア、マレーシア、ラトビア、ロシア、ウズベキスタン、ベトナム、ザンビア等

● 特定非営利活動法人 みみをすますプロジェクト（札幌市）

事業の実施概要

本事業は、2011年に起きた東京電力福島第一原発事故で被災した福島県の中学生たちを夏休みに北海道別海町に招いて保養合宿を行うもので、今年で5回目となりました。

保養事業とは、放射能の影響が懸念される地域に在住の方たちに、放射能の影響の少ない安全な地域に滞在していただくことで、体調を整えて心身をいやすことを目指す事業です。昨年度までは中学校3年生の受験生のための合宿でしたが、塾生たちの強い希望により今年度は初めて1年~3年生までのすべての学年を受け入れました。



活動成果

お寺での合宿期間中、毎日の学習はもとより、炊事・洗濯・掃除など生活の基本を学び、日替わりで茶道や絵手紙づくりなどを体験。温泉や海で遊んでリフレッシュ。また地元の方たちとの交流を通して人の優しさにふれ、他社を思いやる心の大切さも学びました。参加した中学生たちは日ごとに生き生きとした表情となり、仲間同士の絆も深まりました。

● NPO 北海道ネウボラ（札幌市）

事業の実施概要・活動成果

12回の相談室を開催し、子育ての関わり方、検診時の以上の心配など相談を受け、昨年度よりトレーニングを積んでいるオープンダイアログの実践に務めました。相談者の来所がないときは、ロールプレイングによる練習を行いました。

相談室以外の赤ちゃんひろばmammamステーションは年度内中に道内4ヶ所となり、相談室より親子のつどいやすいひろばでのオープンダイアログの実践に役立ちました。ただ、子育て中のスタッフのため、日程の確保に苦労しました。



● 特定非営利活動法人 エゾシカネット（札幌市）

● **事業の実施概要・活動成果**

自然観察（草や樹木）、生物多様性（キノコ、野鳥、小動物）、環境保全（植樹、枝打ち体験館）、ものづくり（鹿角、木工）、食育（鹿肉、地物食材を活かす）など参加交流の企画をワークショップ、グループ形式で行い、これらの目的をすべて満足いただくことができました。



各自できあがり作品を持ち帰りいい思い出になったと思います。これらを通して、資源を活かす大切さ、自然や環境そして命の尊さを実体験できました。将来志の高い、そして人間と動物や生き物の共生を考えてくれる皆さんになってくれればと思います。

● 重複聴覚障害者と高齢ろうあ者の在宅福祉を考える会「とも」（札幌市）

● **事業の実施概要**

● 「ともサロン・あさぶ」の定期開催（年9回）

- 参加対象者：地域の一般市民および、聴覚障がい児・者とそのご家族など
- スタッフ：「とも」会員
- ボランティア：「とも」会員、札幌聴覚障害者協会北区支部役員、北区内手話サークル会員など

● サロンで実施したこと

- ① 高齢者と子ども、学生など様々な立場や年代の人がおしゃべりを楽しみ、将棋やゲームなどで交流していただきました。
- ② ろう児が健聴の子どもや大学生のお兄さん、お姉さんと一緒にあそびながら、様々な人と関わることを体験。参加者の前で自己紹介や昼食の食材を絵に書き出して高齢者に手話で説明しました。
- ③ 昼食に季節の物を使った汁物やおふくろの味を提供しました。また、季節に合わせお茶、珈琲を常備して提供しました。
- ④ ミニ講演：スタッフや参加者が、健康、社会問題などを話題に3分程度話題提供しました。参加者からも意見や情報が積極的に出されました。
- ⑤ ミニ手話教室：手話を習いたい地域の人が訪れると、高齢ろうあ者が交代で指導しました。

● **活動成果**

市民と、聴覚に障害がある方々（幼児から高齢者まで）が、気軽に交流できる「サロ

ン」として、札幌ろう学校の児童と、その親の方々に6月～8月まで休日の遊び場として活用していただきました。高齢の方々は「ともサロン」を気持ちよく通える場所にしようと、ルールを決めるなど、皆さんで工夫されていました。又、軽度認知症の奥様を連れて毎回参加された方がおられましたが、話し相手も多く、ご主人もリフレッシュできる機会になったようです。

高齢者の一人暮らしで単品になりがちな昼食も、たくさんの方と一緒に多品目の食事を楽しんでいただき、呉汁、ちらし寿司など昔懐かしい料理のリクエストが毎回ありました。

手話を覚えたい一般市民の方が立ち寄った時は、高齢の方が、積極的に手話を教えていました。

時には参加者が講師になって、生活の知恵や詐欺に合わない為の心得など情報提供がされました。

● 日本ユーラシア協会札幌支部（札幌市）

事業の実施概要・活動成果

第73期ロシア語講座は定期的を開催しています。入門、文法、初級Ⅰ・Ⅱ、中級、上級の6講座は不定期に開講しています。翻訳と朗読の講座を開講しています。講師は文法以外はネイティブです。長期にわたり受講している方もおり、途中で体調を崩され断念される方も出ましたが、他方、他教室からの移籍者もあり、あまり大きな受講生の増減はありませんでした。毎年開催しています詩のつどいやロシア人との交流会を通し、今期も受講生中心の活動が展開されました。講座開講の目的であるロシア語文化を知るため、ロシアの人々との交流を深めることなど目的は達成されていると考えています。



● 手作り紙芝居「なかま」（道央圏 江別市）

事業の実施概要・活動成果

平成28年に結成以来、えべつしないを中心に我々会員が自作した大型紙芝居をもって、高齢者施設を慰問し、今年度は、27日間、延べ290名を派遣して活動してきました。

訪問先の職員の方々、入居者の皆さんの笑顔が私どもの活動維持の「力」となっております。

毎年、一作の新作を発表し、今後も元気に明るく訪問を続けたいと思っています。



● 夢一座（道央圏 江別市）

● 事業の実施概要

（１）ボランティア精神に基づき芸能をもって奉仕に従事することを目的とします。

（２）本会は三味線・尺八・太鼓・唄い手・舞踊をもって構成されます。

（３）本会は各施設からの慰問要請を社会福祉協議会経由で受け、奉仕活動を実施します。

（４）奉仕活動の実施場所は原則として実施養成された施設とし、本会が各施設に出向き行うものとします。



● 活動成果

（１）歌詞カードを整備したことにより、施設の利用者様が私たちに合わせて歌うなどを活気が出てきて、より一層明るい雰囲気になった。

（２）手踊りに使用する花笠が壊れかけていたのを補修・取替え等整備したことで破損を気にしないで踊ることができ、スムーズに進行するようになった。

● 恵庭市点訳赤十字奉仕団（道央圏 恵庭市）

事業の実施概要・活動成果

視覚障がい児（者）が日々楽しみにしている新聞記事及び個人からの依頼図書等の点訳作業及び各学校への点字体験学習、養成講座実施等の活動を行っています。

点字編集システムを導入したことによって依頼図書が13冊、6,315ページを点訳することができました。新聞点訳に関しては、発生日から3日後に発送という厳しい条件の中でも点訳・編集・校正が編集システム導入のおかげでスピーディーに行えるようになりました。



● 寿都まちづくり協議会（道央圏 寿都町）

事業の実施概要・活動成果

寿都町を広くPRすることを目的として、人々が多く訪れる場所において、写真展を開催し、北海道内外からの観光客に「寿都の良さや素晴らしさ」を伝えることができました。

その他にも、映像による地域の紹介や、カレンダー、ポストカードの製作などにより、会員相互の交流が図られました。



● くっちゃんプラスオーケストラ（道央圏 倶知安町）

事業の実施概要・活動成果

8月26日（日）、くっちゃん福祉まつりに参加し、5曲演奏しました。くっちゃん福祉まつりに参加したことで、町内の方を中心とした多くの人に、くっちゃんプラスオーケストラについて知ってもらうことができました。



● ボランティアサークル「ひとみの会」（道央圏 岩見沢市）

事業の実施概要・活動成果

12月18日、ディサービス「あすも」のクリスマス会で、レクリエーションを担当し、手遊びや歌、手品、ゲームなどをした後、会員がサンタクロースになり、利用者さんへささやかなプレゼントをしました。とても楽しんでいただき嬉しいです。

3月1日、特養「こぶし」でひな祭りのお手伝いと花管音頭を踊りました。

● 岩見沢市点訳赤十字奉仕団（道央圏 岩見沢市）

事業の実施概要・活動成果

今年度は、三笠小学校へ「障がい者の日」の取組における学習ということで、36名の児童に対し点訳講座を行いました。

来年度も点字器での勉強をさらにおすすめて子ども達にわかりやすく取り組んでもらえるよう努力していきたいと思っています。

● 岩見沢市赤十字奉仕団（道央圏 岩見沢市）

事業の実施概要・活動成果

今年度は、幾春別川や福祉村などの周辺で花壇を整備したほか、清拭用ウエスづくり、清和荘でのクリスマス会、こぶし荘入所者へのお茶の招待などを実施しました。



● 妹背牛町1区20町内会地域づくりプロジェクト委員会（道央圏 妹背牛町）

事業の実施概要・活動成果

妹背牛町地域包括センターの認知症地域支援推進員を講師に「ゲームでわかる認知症」というタイトルで1時間30分、ゲームや講演で認知症に対する理解を深めました。

また、妹背牛町健康福祉課の保健師を講師に「いきいき元気！毎日健康！LET'S「ながら」体操」というタイトルで1時間、運動しようと思わずに空いた時間でできる上半身、下半身、体幹、ストレッチなどの運動内容の講義や実技を行いました。

昼には、参加者や一人世帯高齢者とのふれあいを目的に昼食を参加者が一緒にとる「みんなでランチ」を行い、町内会会員の交流を図ることができました。

今回の参加者は例年より少なく20名の参加でありましたが、初の試みとして、参加者にアンケートを実施しましたので、次回開催の参考としたいと考えております。



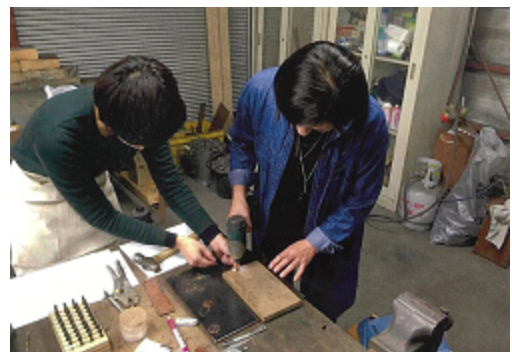
● 特定非営利活動法人 テツプロ（道央圏 室蘭市）

事業概要・活動成果

鉄のまち室蘭で、ものづくりに親しむ機会を提供し、地域の産業やものづくりへの関心を育み、地元へ愛着を持ってもらう取組みで「てついく」の一環としてイベントを開催しました。

・銅版バッチ刻印

金属の加工性を体験してもらいました。叩く練習を指導し、名前などを刻印しました。幼児から大人ま



で多数の参加がありました。

- ・木エイス作り

木工家、清水宏晃氏が材料を用意し、ねじを使って組み立てる作業を主に小学生が取り組みました。

- ・シルクスクリーン印刷

印刷の基本であるシルクスクリーンを体験しました。

- ・たたら製鉄

砂鉄と木炭で鉄を作る「たたら製鉄」を行い、砂鉄・木炭を入れる作業や2000度近い炉内をのぞき、ノロ出し(不純物取り出し)やケラ出し(鉄を取り出す作業)を子どもたちが体験しました。

● 函館中途失聴者・難聴者協会（道南圏 函館市）

事業概要・活動成果

地震災害発生時に聴覚障害者がどのような対応ができるか？被災後の支援依頼等について、東日本大震災を体験した聴覚障害当事者の方をお招きしてご講演いただきました。当日は要約筆記（日本語文字通訳）、手話通訳、補助援助システム（磁気誘導グループ）を配置し、聴覚障がい者への情報保障環境を整備しました。聴覚障がい者、健常者を含む、42名の参加がありました。



未曾有の大震災での障がい当事者としての体験談、被災しながらも障がい当事者団体として要約筆記者と協働して、地域の同障がい者支援にあたった内容は、聴講者に感銘を与え、各々の意識を変えるきっかけになったことと思います。

聴覚障がい者は災害時の音声の情報取得が困難なため、ICT機器やTV等で情報取得できない場合のことも考え、日頃から地域とつながりを持つことや、支援を受けることに慣れておくこと、同障がい者同士のピアサポートの大切さ等を考える機会とすることができました。聴講できなかった当会会員には、後日、講演内容の記録集を配布予定です。

● 手づくりキャップ・リラの会（道南圏 函館市）

事業概要・活動成果

1. 函館赤十字病院（150床）、私立函館病院（648床）には平成29年11月と12月より手づくり帽子を提供しました。

2. 函館中央病院（572床）には平成30年5月7日よりガン支援セクター開設に伴い、相談室に手づくり帽子を展示しました。特に展示コーナーは外来通路に面し大勢の人の目に入りやすく関係者の方々が驚く程のペースで、本年2月までに230枚提供しました。

3. 始めは室蘭の会の帽子の作り方を参考にしましたが、徐々に患者様のご意見や要望を伺い、試行錯誤しながら独自のものを作成しています。

4. 平成29年9月に開催されました渡島管内のボランティア研修会に参加した折に窮地の戸井町の方々に会い、本会の活動を話してみたところ、翌年の昆布漁の終わった9月から2名が入会し活動しています。また、知人の紹介でタオルの寄贈者が江差町や北斗市にも広がり、2回の講習会に14名が参加し、作成のお手伝いをする方が出てきました。



● ここから健求会（道南圏 函館市）

事業概要・活動成果

当団体は函館市民の健康的な生活の輪を拓けることを願いに、市民が自主的に健康づくりに取り組むことのできるあり方としての、自然治癒力を活性化させる健康法（美を楽しむ健康法、自然順応型の食生活、生体エネルギー療法）の活用によるQOL（生活の質）の向上を目的に活動をしています。平成30年度はその一環として、美を楽しむ健康法と生体エネルギー療法を組み合わせた「健康づくりの日」を計7回、「美を楽しむ健康法セミナー」を計2回、「食べて健やかサロン」を計3回実施いたしました。

美を楽しむ健康法セミナーでは具体的には花の美を発見することを通して感動を呼び起こし自然治癒力を活性化による「一輪花体験」を実施することにより、参加者の肩こりの軽減（筋硬度計によって測定）や、その花を家庭に持ち帰りリビングで飾ることによる家庭環境の平穏化など、参加者の生活への好影響が認められました。また近年アートと健康との関連がクローズアップされてとおり、そのことをミニセミナーを通して紹介することで美を健康法として生活に取り入れたいと、そのノウハウを学ぼうとする方も出る等心身の健康的な生活の輪の広がりが認められております。



エネルギー療法では体験者のリラックスや不定愁訴の軽減など、優位な変化が認められ、市民の健康づくりに寄与できたものと考えております。

他にも、「食べてすこやかサロン」を実施し、本格みそづくりを仕込みと仕分けで計2回、男の料理教室を計1回実施しました。

● NPO 法人 函館アフリカ支援協会（道南圏 函館市）

事業概要・活動成果

北海道新聞函館支社、函館新聞各社に記事の掲載をお願いするとともに、ケーブルテレビNCVにも出演し広く市民に来場を呼びかけました。

また、会員の呼びかけで函館合唱団26名、江差追分会10名の出演など多数の出演者がボランティアで参加協力していただき、初めての開催で集客規模を危惧しましたが、結果、延べ約2000人の来場者が集まり、多くの寄付が集まりました。



この寄付は、足踏みミシンや手動編み機をウガンダへ送る費用や支援プログラムの費用に充てる予定です。

今回のチャリティーコンサートの経験を活かし、また来年も行いと考えております。

● 日本吹矢レクリエーション協会 帯広（十勝圏 帯広市）

事業概要・活動成果

超高齢者化社会において健康寿命を伸ばすことが急務であり、各自治体で「介護予防」の取組みを強化しております。その中で十勝振興局の11市町村で吹矢の体験会を実施し、一部の老人クラブ、デイサービス、介護付老人ホームにおいても体験会を実施しました。その結果、豊頃町、池田町、大樹町、帯広市でサークルがスタートし、定期的に行われるようになりました。



また、幕別町、新得町、帯広市の教育委員会において生涯学習のカリキュラムとして取り上げられました。

健康に暮らすためにも適度な運動と人との繋がりはとても大事です。その意味で吹矢は最適な競技とっており、今後も十勝において吹矢が定着し、さらにサークルが広がるよう積極的な活動を行っていきたいと考えます。

● とかちすずらんの会（十勝圏 帯広市）

事業概要・活動成果

釧路市と札幌市の医師ら6名を招聘し、現在の医療事情や知識の情報を、会員及び参加した一般死因に対し講習し、慢性腎臓病患者（CKD）の正しい知識とそれによる安心を広く提供するため、次の短時間講座（20～30分）を実施した。

- 1 「腎移植までの流れと費用について」
 - 2 「最新の移植事情」
 - 3 「腎移植後の生活について」
 - 4 「食べるを医学する糖尿病学」
 - 5 「じんぞうさんの大冒険」
 - 6 「白熱減塩教室～心臓・腎臓への希望」
-

● 特定非営利活動法人 グリーンマザーズ（道北圏 旭川市）

事業概要・活動成果

当初80名参加の予定に対し、103名もの方が参加し、ボランティアは12名でしたが、成人代表による、20歳の抱負を語ってもらい、養護学校、高等養護学校の先生や保護者の交流の場になり、とてもにぎわいました。

成人者のピアノ演奏があり場を和ませてもらい、成人者の一言コーナー（自己紹介、事業所の名前、仕事内容や頑張っていることを34名全員話してもらいました）、「チームぴあどらごん」によるよさこいで盛り上げ、親代表のあいさつ、お花のプレゼントを用意して、成人者からご両親へ渡してもらいました。

終了後、参加者全員で集合写真を撮りましたが場になじめなく、残念ながら写真には写れなかった成人者も2名いましたが、最後まで会場には入れたことや子どもに障がいがあり、成人式に出ることを考えていなかった保護者の方は喜んでいました。



● ぶらのチャリティーウォーク（道北圏 富良野市）

事業概要・活動成果

1. チャリティーコンサート：「弦」のタベ
・予定通り6月28日（木）に開催し、70名の聴衆の皆さんに楽しんでいただいた。

翌日、富良野市布部小学校を急遽、出前コンサートを開催し、子ども達に喜んでもらった。



2. 富良野親子保養合宿

8月1～10日の10日間、福島県から6家族・15名の母子を招待して南富良野町、かなやま湖及び十勝岳温泉で保養合宿を開催した。

3. 富良野親子保養合宿

10月6日、富良野市内、なまこ山で50名程度が参加する「第4回ぶらのチャリティーウォーク」を開催する予定です。

● 子育て支援ボランティアサークル・WISH（道北圏 南富良野町）

事業概要

タイトル：こどもえほんまつり

日 時：平成30年9月30日（日）
午後12：30～17：00

場 所：南富良野小学校体育館

目 的： 子ども達がたくさんの本に出会う機会づくり、読み聞かせやビブリオバトルでより楽しく本の世界に入り込んでもらうこと

内 容： 1 千里大学紙芝居サークル紙芝居
2 ビブリオバトル
3 WISHの紙芝居
4 読み聞かせ



活動成果

今回、初めて試みたビブリオバトルですが、積極的に発表してくれた子ども達を見て、小さな時から自分の考え（想い）をしっかりと表現できるのはとても素晴らしいと感じ、そんな経験を積む機会づくりにとても良いと思いました。7名の参加者のうち4名は、「こどもえほんまつり」に毎回参加していて、本が大好きな子に育っています。少なからず私たちの活動もその力添えになっていると思います。今後も読み聞かせを通じて子どもと本をつなぐ担い手になれるよう活動します。

● 子どもの居場所づくりを考える会（道北圏 留萌市）

事業概要・活動成果

① 平成30年は、子ども食堂を始めてから2年目ということもあり、当初からの目的でもある放課後を安心して過ごせる居場所、そして安価（また無料）で手づくりの温かい食事を提供すること仕事を持つ母親たちに気晴らしの時間をもってもらうこと等は、新聞（2社）の協力を求め、周知が進んだこともあり、多くの人々に利用をしてもらいました。



② 本年度からは、家庭で普通に作られていたおかず類（切り干し大根、ひじきの煮物、キンピラ、酢の物）を取り入れました。

地域性を活かし、ホッケのすまし汁、けんちん汁など、留萌独特の料理など、魚屋さんの協力を得るなどをして試みた結果、どの年代にも好評を得ました。

③ 子ども食堂は子ども専用ではないことが知られてきたこともあり、高齢者の見守りや孤食を防ぐなど、多種多様な人々とのふれあいに高齢者自らが携われることに期待が持てることが確信できました。異世代の交流は、人口減少の進む地域ではそれぞれの接する時間は短くても、印象深いものになるようこれからも努力を積み重ねていきたいと思ひます。

● 美幌手話の会 ピポロ（オホーツク圏 美幌町）

事業概要・活動成果

平成30年10月28日（日）、美幌町民会館にて、「美幌手話の会 ピポロ20周年記念」を開催しました。行事の実施にあたり、ピポロ会員の話し合いから、町民の方々にもっと手話を広げようと、その時に、ろうあ者である金原輝幸 氏の協力が得られたことから、町民をはじめ「オホーツク地域手話の会」にも声をかけ、「進化する 手話コミュニケーション」と題して、美幌町の支援もいただいていたの開催でした。美幌町長はじめ、町会議員や関係者、町民、会員など約100名の参加者を迎えての開催となりました。特にろうあ者の講師による手話での講演に、参加者の多くは初体験でしたが、講演を通して、手話は言葉であり、難しくもなく、これからも手話を持つ力で、手話の普及や活動につながっていければと思ひました。



事業概要・活動成果

- ① さくらんぼ部会においては、利用者が年々増加し、85名で生活支援を有償ボランティアで行っています。
- ② ひだまり部会においては、月1回、町民の高齢者（40名）を対象に、高齢者の孤立化や閉じこもりを防止し、元気で長生きを楽しめる仲間作りの場を提供し、認知症の予防と生きがいのある生活を支援しています。
- ③ やまびこ部会においては、4月から12月まで月2回高齢者（22名）を対象に脳と心を鍛える簡単なドリル、ふまねっと等を行い、心わくわくを感じ、心身共に健全な生活を送れるよう支援しています。
- ④ ふまねっと部会においては、月1回30名を対象にふまねっとを行い、高齢者の社会参加や生きがいづくりの一旦として歩行機能や認知機能の改善のため、仲間と楽しく賑やかに心の支援する活動を行っています。

